

【 5月の風に思いを寄せて・・・ 】

“福崇億劫 慶溢萬齡” (薬師寺東塔相輪「東塔擦銘中」)

“さきはいはおっこうにたかく、 よろこびはばんれいにあふれむ”

飛鳥奈良時代創建当時の姿を残した薬師寺東塔。110年ぶりという2009年(平成21年)に着工された解体修理がこの2020年(令和2年)5月に落慶賛法要を迎えられる。。延期とある。

先日歴史秘話ヒストリア「薬師寺東塔解体修理」番組を興味深く拝見した。薬師寺というと、東塔西塔二つの塔が並ぶ美しい景観が目浮かぶ。

25年ほど前の私事の記憶だが、家族で奈良に出かけた。その際の観光案内で、東塔は1300年前の姿、西塔は近年の再建の姿で、両塔の傾斜の違い・・・西塔の屋根の上りは数十年の間に下がって東塔と同じになる事を計算されている・・・と思い出す。

国宝東塔は裳階を備えた3重の塔で、大小屋根の重なりが美しい「凍れる音楽」と愛称され、日本で3番目に古い建造物だそうだ。

薬師寺は680年に第40代天武天皇によって発願。698年第41代持統天皇によって藤原京に完成。平城京遷都後、718年に現在地に移築。その後盛衰を繰り返し、1528年兵火により金堂、講堂、西塔・・・を焼失。450年仮堂のままだった姿を、昭和42年より復興工事に着手。1976年金堂落慶、1981年西塔落慶。2002年講堂落慶予定と手元の古いパンフレットにある。黒くどっしりと厳かな薬師三尊像と共に白鳳時代、、という歴史で習った古代の印象を勝手に持っていた薬師寺。

大学生の頃、仏像に惹かれ京都、奈良の寺院廻りをしていた。40年ほど前に訪ねた記憶を辿り、真新しい金堂の写真を見つけた。再建という意識が全く抜け落ちていた。

高田好胤元管主の金堂再建への願い。著名な和上のお名前は留めているが、テレビ映像で初めて拝した。お写経勸進を進められた計り知れないご苦勞。再建に当時1巻千円で百万巻を要した。この勸進お写経は今金堂に収められていると知った。

東塔解体修理の途上、基壇調査で、創建当初の土壇から固い粘土が見つまっている。心礎の土が赤膚焼の土と同じであると、陶芸家のお話を伝え聞いた。たまたまブラリと入った陶芸作品展だったが、そこで、東塔心礎の土で焼かれたという焼き物を目にする事ができた。和同開珎の貨幣も見ついていると聞いたがその時は理解できなかった。

塔は仏舎利を修める神聖な場。当時貨幣には災いを遠ざける力があると信じられ、土地を清める祈りを込めた物と知った。

この塔に収める仏舎利容器の作成のお一人、繊細な青磁作品で有名な川瀬忍師のご講演でも、1300年前の土で制作される厳かな思いを拝聴できた。

薬師寺金堂のご本尊、国宝薬師三尊像。薬師如来は東方浄瑠璃浄土の教主で医王如来とも言われ、心身の健康を守護してくれる。脇侍は日光月光菩薩。たおやかでとても美しい。

天武天皇が、国の母と言われる皇后の病平癒を願い、国の災いを憂いて発願された薬師寺建立。

祈りを込め心礎に貨幣を埋めた奈良白鳳のいにしえと、祈りを込めたお写経が収められている昭和平成の近代と、1300年という時間と空間を超えて、遙かな民の祈りに感動する。

先進技術の進んだこの現代に、今新型コロナウイルス感染症で国中が、世界中が苦しみ悲しむ。医療逼迫、緊急事態宣言、行動自粛、経営活動、講演の延期中止、遊興、娯楽施設等も、全てにおいて閉鎖・・・と世情が闇に包まれる。生老病死を説かれたお釈迦様を、そして薬師如来が幾度となく脳裏を過る。「後生の一大事」。もし感染したら・・・。

最前線で手を尽くして下さる医療関係の方、政府関係の方、様々に対策を考え導いてくださる方、楽しさを、温かさを届けてくれる方々、そして共にいる家族。今ある命を、全ての命を祈る。

“幸せが永遠に続くように、慶びが萬年にあふれるように”

2020年（令和2年）5月15日 記